

幼稚園に我が子を送て感じた事

櫻田千恵子

幼稚園と申しましても種々なのがある様でございますので出さない方が良くないふ様なお話もうかひます。幸ひ宅の子供達はよい幼稚園にまゐられましたので其様な事は考へて居りません。それよりもこれまであまり側にばかり居りました爲か差して氣づかなかつた點を手離してはじめてはつきり知事が出來たりまた思ひがけない發見をするといふ様な事がござりました。長男が幼稚園には入りまして初めてまゐります日に私がつれてまゐりました。すると平常家に居りましてはハキ／＼して居た筈の子が皆様と列に連なるのを好まないで活發に遊びませんでした。又次男の時にははじめての體格検査の日に附き添てまゐりましたが家に居りましては内氣でおとなしい子で他人様の前にはじめて出てどんなかど氣づかひましたにもかゝらず先生が呼びになると元氣よく出てお聞きになればお答もするといふ様で、家に居りました間には可成かひかぶつて居た性

質も幼稚園に出してはじめて思ひの外であつた事がわかり又家ではそんなに認めてゐなかつた點を幼稚園に出してはじめて發見したり致しました。これは小學校へ入學して初めて知るのでは遅いと思ひます。またこんな事も思ひました。あまり多くの母達が幼稚園へ對して期待を大きくしすぎて居るといふ事。一つには小學校と混同すると云ふ事でございます。折り紙とか手工とか一日幼稚園に行けば何かを仕て來るものゝ様に多くの者が考へてまゐりました。が幼稚園は家庭の小兒室の離れの様なものである決して何かをさせる處でもなければ勿論をしへる處でもないといふお話を伺ひまして幼稚園はどういふものであるかといふ事を子供を入れます前に是非諒解する必要がありますと存じました。又今まで家にばかり居りましたのが多くのお友達の中には入りまして自分より強い者(友達で)に出合ひました時その爲で幼稚園全體を好まなくなり行くのをきらふ様な事も

ございましたけれどさういふ時は親が其の事に同意致しませんで子供の注意を他の方へむけそれでもお家がないお山があるでしよ、お砂場があるでしよと云ていやな事を忘れさせるように致しませば子供はまた興味をもち心持ちが變つてまゐるようになります。一寸のことでございますがさういふ時子供の云ふ事に同意してしまひますとなほなほ幼稚園に行くのをいやに思ふようになります。又幼稚園に出しましたからは先生を信用して其中の小さな出来事やすべては先生にお任せ申して母達があまり干渉しない方がよいと思ひます。けれども子供の心身の状態につきましては兎に角子供の生活の様式に變化を生じたのでござりますから母として充分に注意する事が必要だと存じます、多少の神経質の子は餘計に過敏になりましたり食事を減じたりする様な事もございませす。又昨年は毎月體格検査をなさつて夏休みになります時八月と九月は家でする様にこの御通知でございましてがあれは大層よい事と思ひまして幼稚園に參りません姉や兄達の身長體重をも未だに毎月量て居ります殊に長男は日曜毎に(中學の入學準備で過度に頭を使ひますので)體重を量りまして睡眠

や食事に氣をつけて居ります。家にばかり居りました間は時間といふ事はさう規則正しくまゐらない事がございましたも幼稚園には入りましたのを機會として良い方へ習慣づける事が出来ませうしても十時間以上は睡眠をとらなければならぬあの時期に宵ばりの癢などがございましたら、あしたは早く起きてたのしみな幼稚園へ行きませうと云ふ事でそれをなほすといふ事はほんどうに逃してはならないよ機でございませす又泥いぢりでもした時の外は手を洗はないといふ様なのも幼稚園から歸たらば必ず手足を洗ふ様な習慣や自分の手近い持ち物の始末を自分でするといふ習慣なども此の時を機會に致しますと無理をせず子供自身も興味を以てよろこんで良習慣には入れると存じます。又お辨當に就ては充分母が注意すべきだと存じます。嫌なお菜のは入てゐた爲にたのしいはづのお辨當の時間が不愉快にならないように、今日は何のおかづがは入てゐるかといふ事がたのしみである様に、幼稚園での子供のたのしみな事の大きい一つとしてお辨當の時間がどんなに子供に期待されてゐるかをして又其の時間の心持ちよく愉快である事がどんなに大切な事であるかとい

ふ事をよく考へねばならぬと存じます。

著物につきましては汚しても吐られず軽く運動し易く洗濯のきくものまゝ木綿類の單衣が一番宜しいと思ひます西洋の子供は他所行きでも洗へない地質のものは決して著せないと思ふ事でございます。

春先きから夏にかけてはキャラコの様な白い木綿類が最もよいと思ひます白地は汚れが目立ちますが洗ひ代へを作つて汚して歸つたら手まめにすぐ洗ふ様に致しませば入梅中でも大して困ることはないと思ひます。遊び易く洗ひ易くと申しますと洋服が一番よい様に思ひますが下著が完全でない他人にも自分にも迷惑になる様なことがござります。或西洋の方の遊していらつしやる幼稚園では獨人で用足しの出来ない者は入れないといふ規定ださうでございますが、家庭の様な少數ではなく澤山のお子達がお集りになる所では一々人手を煩すようなめんどろなボタンなどは用ひず獨人で用を足し易い様に下著類の工夫をする事が大切だと存じます。又一方には下著の不完全な爲にお行儀悪くなり易く自由な運動のさまたげにならない様によく身體が被はれるやうにする事が大切だと存じます。それと幼稚園には入り

ますまでに心掛けて獨人で御不淨へ行く事が出来る様に慣らして置くといふ事も大切だと存じます。はきものも紐の靴よりボタンの半ぐつの方が自分で自由にもなりよいと思ひます、ごく小さい折にはゴムのオバシウスの小さい様なのを用ひましたが幼稚園時代になりますと運動がはげしくなりますからあれではとても保ちません。

其の他家庭に居りますとあんまりいらぬ細い處まで注意が届きすぎて却て卑屈になりはしまいかとも思はれます。たとへば多くの方がさうお感じの様でございますが幼稚園で少し驚きましたのは小さい人達が缺を使ふ事でございます、家に居ります時は年をとつた人達なども危いからと云てもたせませんでした。が幼稚園でお使はせになるのでそれから、かうすれば危いものと云ふ事をよく云ひ含めて持たせるようになり、そしてさせないで懸念してゐた様な危険は伴はないといふ事を知るようになります。そして兎に角一人手離して出すのでございますからそれに困らない様にする事を幼稚園には入ります前から心がけて準備させる必要があると思ひます。時にはお友達によつて白い紙が汚され

るといふ様な憂を持つ事もございますが、そうかと思つて友を避けると云ふ事は却ていけないと存じます。それより段々成人すればは入らなければならぬ社會の人と人との調和といふ事に就いて親自身が考へると同時に子供にも注意をしようと思ひます。

これは子供よりも子供の傍で心なく人の批評をする成人の方に責があるのでございますがよく日本の子供は小さいのに衣服などについての批評や非難をする事がございます。幼稚園時代までは母が萬能の時期であり殊に家に居りますと母ほどよい者はなく又偉いものはなく母が仕た事、母に著せられたものは誰も難じる事のないと確信して居りますのが、たま／＼友達から「ヤ、あんなものを著てゐる」など云はれますと子供はそれを強く受けて自負心を傷けられたような感じがございます。お母様は萬能だと思つてゐたのに、そうでない事實に出あつたといふ様な氣持ち。又お友達から笑はれるといふ事の苦痛、などが子供の心を大へんに曇らせませす。これは親達が各自氣をつけて自分の子供で他人の子供を害さないように心懸ける事が大切だと存じます。誰が笑つてもかまひませんと云てそれに堪へたせるといふ

事も酷であり、と申して云はるゝまゝに變へてやる事はなほさらよくございませんとそれよりこれまで癖でちぎに人の批評を爲る成人の方が子供達の爲に自ら考へなければなるまいと存じます。幼稚園の建物やお室、家具等がもつと親しみ易く感じよくまゝの氣分があつたらばと云ふ様な事も思ひました。毎日幼稚園に通ふといふ往復の事が今まで家にはかした子供にとりましては新しい大きな出來事の一つになります電車に乗るなど云ふ事は衛生の方面から危険とも云はれますがこれを機會に人と人との交渉を教へるといふ事が出來ると思ひます、中学生などがお年寄が立つて居ても平氣で腰かけて本を讀んでゐるといふ様な個人主義にかたむかないように過日も日日新聞に載て居りましたが佛領にある獨逸文豪のお墓へ花をあげる事を獨逸の人が頼んで居たのが戦後の暴落で獨逸は花代が支拂へなくなつて困て居ますと佛人は花代は拂へる時が來たら頂きませう國同士の交渉は別として詩人其の人に恨みがある理ではありませんから今迄通りにお花は捧て居りますから御安心なさいと申したそうです。何と云ふ人の心の暖さ。人と人との調和について幼稚園への往復は子供達にとつてよい實驗だと存じます。(文責在記者)